




2022年度(2022年12月期) 上期決算説明会

2022年8月8日
JUKI株式会社

1. 2022年度上期実績 P. 3
2. 2022年度通期見通し P.11
3. 今後の成長に向けた取り組み P.17



1. 2022年度上期実績

1-1 2022年度上期実績

- 売上高：市場回復や成長分野のシェア拡大により前年同期比24%の大幅増収。
- 経常利益：事業領域の拡大や高付加価値分野への戦略経費の投下に加え、中国ロックダウン、部品価格・物流費高騰などでの大幅コスト増により前年同期比若干の減益。

(単位:百万円)	2021年度 上期	2022年度 上期	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	2021年度 通期実績
売上高	47,098	58,577	+11,479	24.4%	101,292
営業利益 [営業利益率]	1,908 [4.1%]	1,558 [2.7%]	△350	△18.3% [△1.4pt]	3,868 [3.8%]
経常利益 [経常利益率]	1,716 [3.6%]	1,581 [2.7%]	△135	△7.8% [△0.9pt]	3,439 [3.4%]
当期純利益 [当期純利益率]	1,221 [2.6%]	846 [1.4%]	△375	△30.7% [△1.2pt]	2,154 [2.1%]
米ドル 期中平均レート	108円	123円	+15円	-	110円
ユーロ 期中平均レート	130円	135円	+5円	-	130円

1-2 セグメント別業績 -売上高-

■ 縫製機器

アパレル市場の需要回復の取り込みにて大幅増収。特にアジア市場が好調。

■ 産業機器

- ・産業装置は欧米・アジアでは増収でしたが、中国でのロックダウンの影響や、新製品の市場供給遅れにより全体の売上は伸び悩み。
- ・国内を中心とした受託加工等のグループ事業の売上は、設備投資需要の高まりもあり堅調に推移。

(単位:百万円)	2021年度 上期	2022年度 上期	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	2021年度 通期実績
縫製機器 &システム	29,005	39,350	+10,345	35.7%	63,213
産業機器 &システム	17,979	19,097	+1,118	6.2%	37,834
その他	113	130	+17	-	244
合計	47,098	58,577	+11,479	24.4%	101,292

1-3 セグメント別業績 -経常利益-

■ 縫製機器

中国でのロックダウンの影響や部品調達難による工場稼働率の低下、部品価格や物流費の高騰によるコストの大幅な上昇などにより前年同期比10億円の減益。

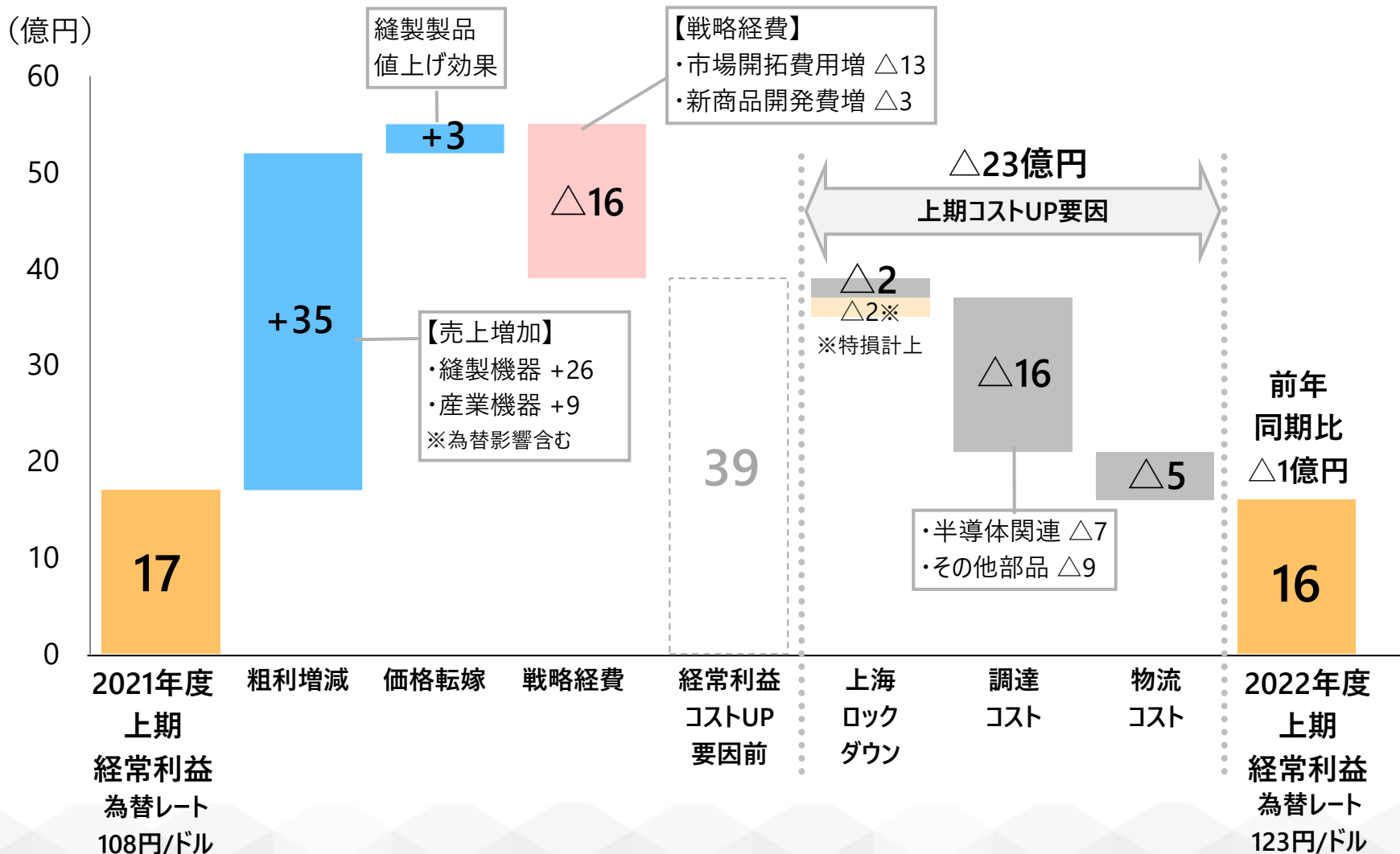
■ 産業機器

グループ事業などの売上増加により前年同期比1.2億円の増益。

(単位:百万円)	2021年度 上期	2022年度 上期	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	2021年度 通期実績
縫製機器 &システム [経常利益率]	1,028 [3.5%]	25 [0.1%]	△1,002	△97.5% [△3.4pt]	1,517 [2.4%]
産業機器 &システム [経常利益率]	1,131 [6.3%]	1,246 [6.5%]	+115	+10.2% [+0.2pt]	2,865 [7.6%]
その他	37	19	△17	-	75
調整額	△481	289	+770	-	△1,018
合計 [経常利益率]	1,716 [3.6%]	1,581 [2.7%]	△134	△7.8% [△0.9pt]	3,439 [3.4%]

1-4 2022年度上期 経常利益増減要因

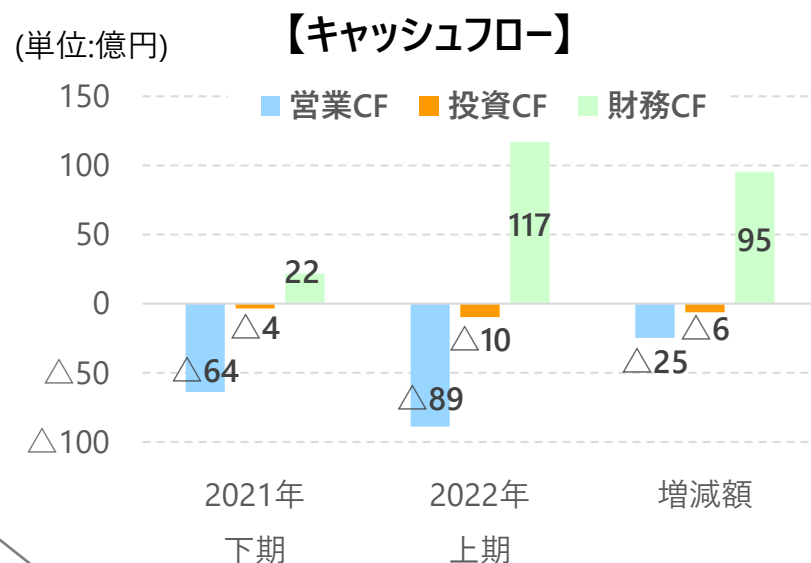
■ 売上高増加による粗利増があったものの、中国ロックダウン、部品価格・物流費高騰などでのコスト増にて、前年同期比若干の減益。



1-5 主要財務項目

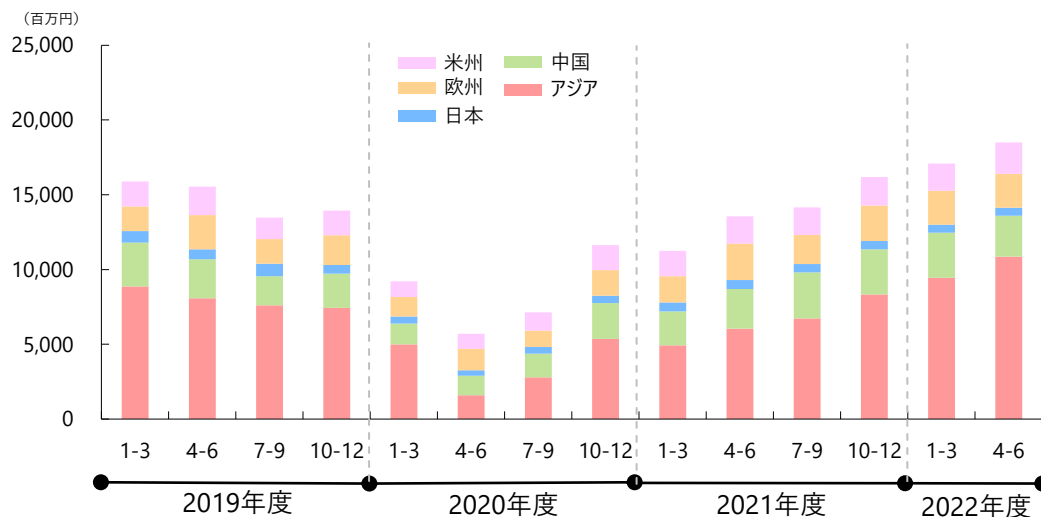
- サプライチェーンの混乱対策としての部品確保や中国ロックダウン対応にて在庫を積み増したことにより、有利子負債も一時的に増加。

(単位:百万円)	2021年度 12月末	2022年度 6月末	増減額
総資産	129,114	152,151	+23,036
純資産 [為替換算調整勘定]	35,672 [△1,484]	39,696 [2,553]	+4,023 [4,037]
自己資本比率	27.3%	25.8%	△1.5%
売上債権 [回転期間]	34,099 [4.0ヵ月]	40,890 [4.2ヵ月]	+6,790 [0.1ヵ月]
在庫 [回転期間]	51,089 [6.1ヵ月]	63,003 [6.5ヵ月]	+11,914 [0.4ヵ月]
仕入債務 [回転期間]	19,831 [2.3ヵ月]	20,156 [2.1ヵ月]	+325 [△0.2ヵ月]
有利子負債	58,979	73,463	+14,483
現預金	6,594	9,264	+2,669
Net DEレシオ	1.47	1.62	+0.15
米ドル 期末レート	115円	137円	+22円

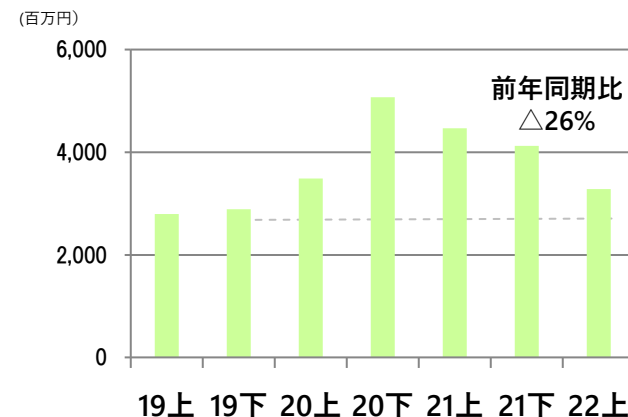


積み増し在庫の精力的な消化を進め
有利子負債の圧縮を図る

1. 【工業用ミシンの地域別売上高推移】（月次集計ベース）



2. 【家庭用ミシンの売上推移】

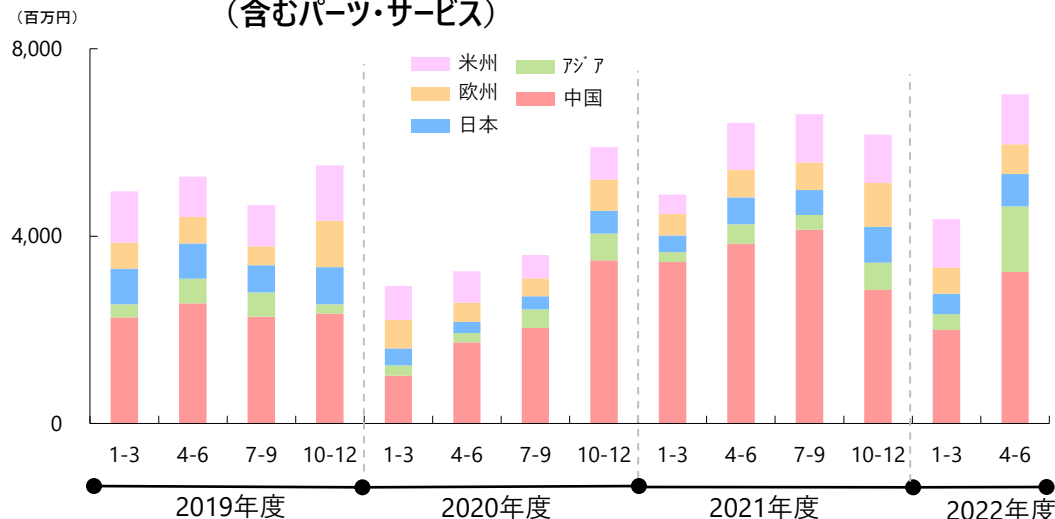


【売上高：前年同期比較】

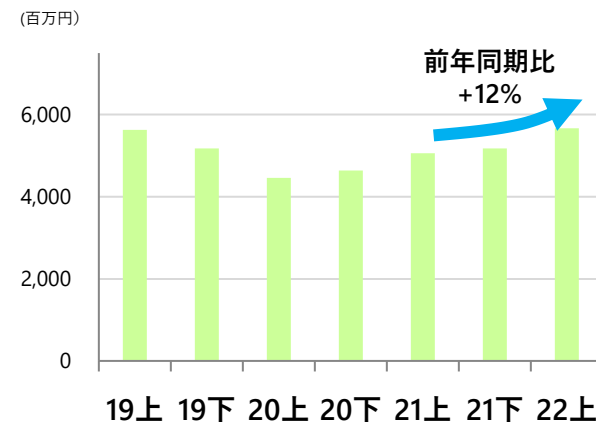
(単位：億円)

	2021年度 (1-6月)	2022年度 (1-6月)	増減額	増減率
中国	49	58	+8	+17%
アジア	110	203	+93	+85%
中国+アジア	159	261	+102	+64%
日本	12	11	$\Delta 1$	$\Delta 12\%$
欧州	42	45	+4	+9%
米州	35	39	+4	+12%
合計	248	356	+108	+44%

1. 【産業装置の地域別売上高推移】(月次集計ベース) (含むパーツ・サービス)



2. 【グループ事業の売上推移】

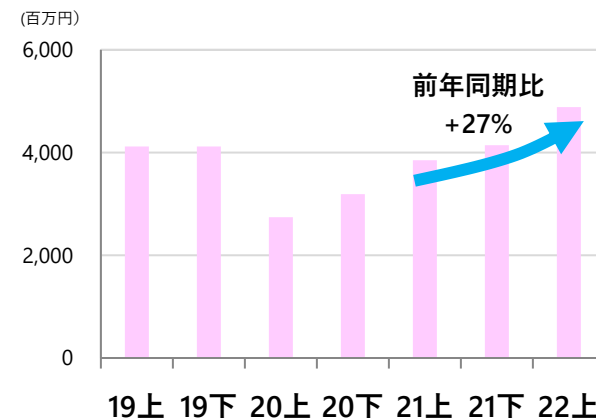


【売上高：前年同期比較】

(単位：億円)

	2021年度 (1-6月)	2022年度 (1-6月)	増減額	増減率
中国	73	52	△20	△28%
アジア	6	17	+11	+176%
中国+アジア	79	69	△9	△12%
日本	9	11	+2	+21%
欧州	10	12	+1	+14%
米州	14	21	+7	+48%
合計	113	114	+1	+1%

3. 【パーツ事業の売上推移】





2. 2022年度通期見通し

■ 市場は引き続き堅調であり、需要に即した対応を販売・生産の両面で強化。

	事業環境	重点対応
市場	<ul style="list-style-type: none"> ・アパレル/半導体/自動車/医療機器等、コロナからの市場回復が進む ・AI/IoT/5G等、先端技術を活用した製品/サービスの市場導入が拡大 ・競合他社の成長、M&A等による事業領域拡大 	<p>縫製機器</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新興国ミドル市場攻略強化 ・アパレル大手攻略の強化 ・アライアンス活用によるノンアパ/ニット拡大 <p>産業機器</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実装新商品の販売強化及びマーケット拡大 ・非実装領域事業の拡大 ・パーツ、サービス事業強化
調達	<ul style="list-style-type: none"> ・原材料の高騰/部品不足は継続 	<ul style="list-style-type: none"> ・影響が大きい部品の設計変更を継続
生産	<ul style="list-style-type: none"> ・中国におけるロックダウンリスクは継続 	<ul style="list-style-type: none"> ・ベトナム、日本などでの並行生産体制強化
物流	<ul style="list-style-type: none"> ・サプライチェーン混乱による物流費の高騰は継続 	<ul style="list-style-type: none"> ・サプライチェーンの抜本的な見直しおよび物流改革によるコスト低減
社会的要請	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsやカーボンニュートラルへの対応 ・働き方改革の推進 ・コーポレートガバナンスの強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ESG経営の徹底 ・環境負荷低減技術の取り込み

2-2 2022年度下期/通期 業績予想

- 上期のコストUP要因改善（ロックダウン解消、調達コスト低減、物流費改善）に加え、高付加価値分野の売上拡大や製品への価格転嫁により大幅増益を図る。
- 上記のことから通期業績予想は前回業績予想(2/9)から変更なし。

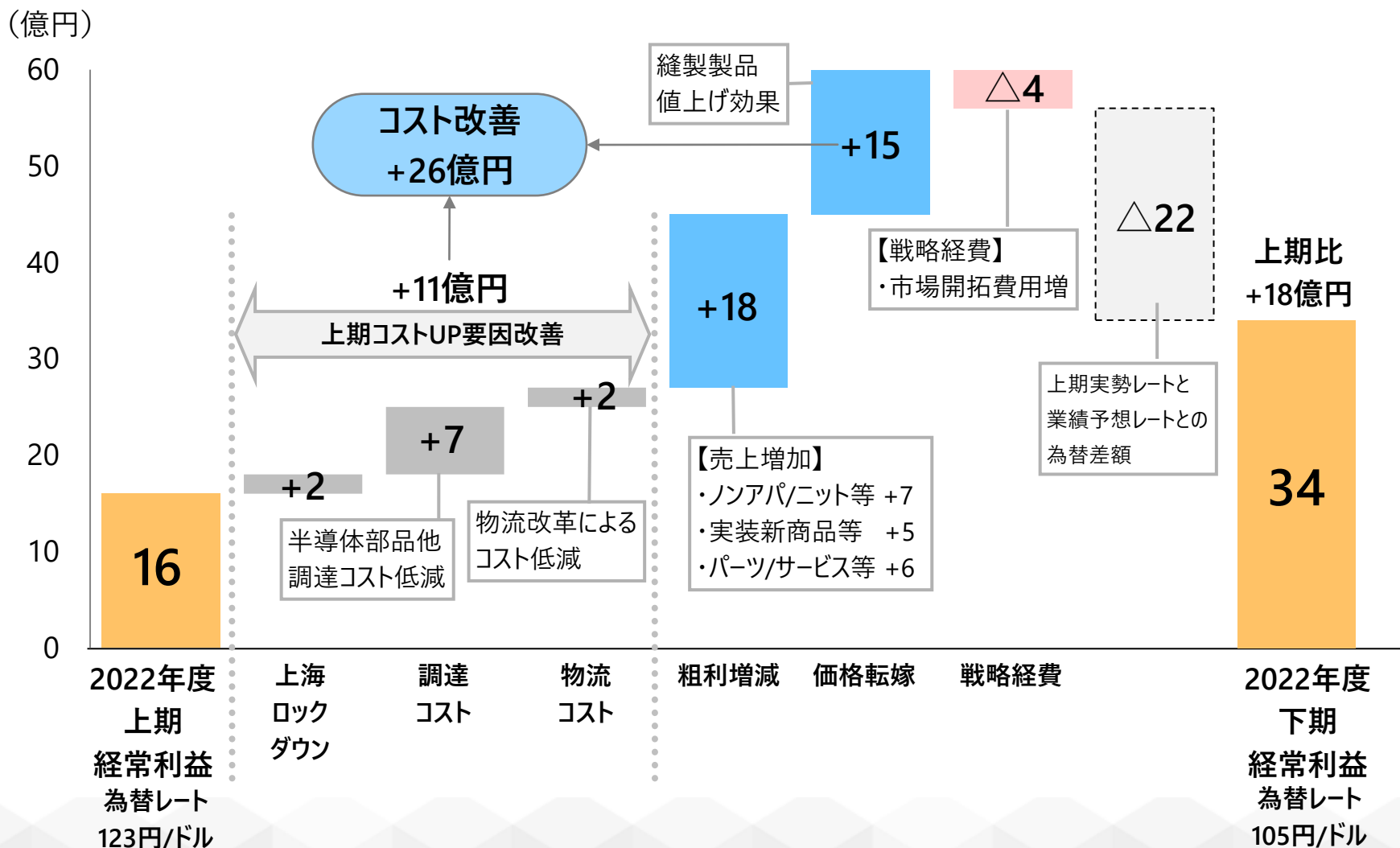
(単位:億円)	2022年度 上期(1-6月)	2022年度 下期(7-12月)	2022年度 通期(1-12月)	2021年度 通期実績
	実績	予想	予想	実績
売上高	586	574※1	1,160	1,013
(縫製機器 & システム)	(394)	(338)	(732)	(632)
(産業機器 & システム)	(191)	(233)	(424)	(378)
営業利益	16	37	53	39
経常利益	16	34	50	34
当期純利益	8	23	31	21
配当	-	-	通期:30円/株	通期:25円/株
米ドル 期中平均レート	123円	105円※1	105円※2	110円

※1 業績予想レート

※2 上期は実勢レート

2-3 2022年度下期 経常利益増減要因

- 上期のコストUP要因改善（ロックダウン解消、調達コスト低減、物流費改善）に加え、高付加価値分野の売上拡大や製品への価格転嫁により大幅増益を図る。



ボーダー
レスX

●新興国ミドル市場攻略(縫製)

JINブランド(サブブランド)パッケージ販売強化

●グローバル企業攻略(縫製/産装)

本社を中核とした各地域販売会社との連携強化



ビジネス
モデルX

●ノンアパレル分野強化(縫製)

7/1 JUKIテクノソリューションズ操業開始

(三菱電機との合併会社 JUKI80% 三菱電機20%)

ノンアパレル分野のリーディングカンパニーへ

●ニット分野強化(縫製)

ペガサス社とのアライアンス拡大

対象市場を拡大し、ニット需要拡大に対応

●非マウンタ領域販売拡大(産装)

挿入機、自動倉庫、検査・計測機販売拡大

高付加価値分野の拡大による収益基盤強化

汎用技術力/製品力
世界的な販売網

自動車産業で培った
先進技術力や製品力



共同開発商品



自動倉庫



検査・計測機

●コスト構造改革の取り組み

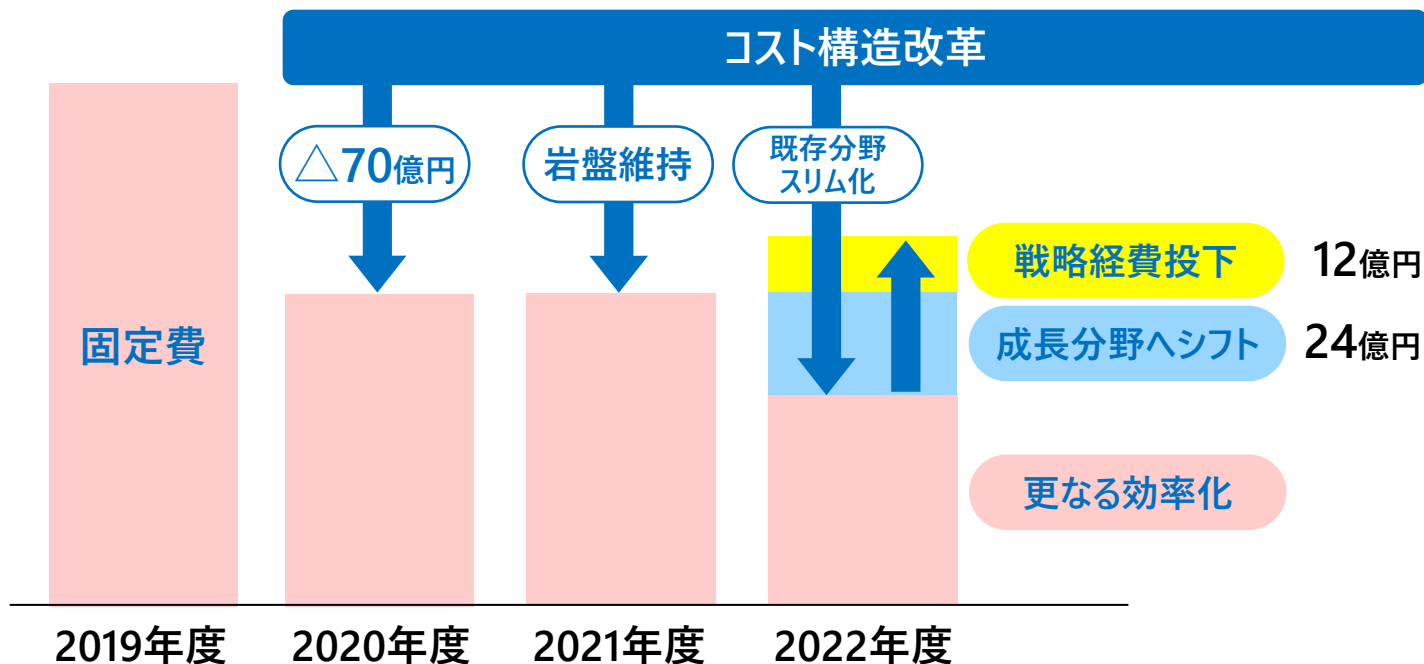
2020年度：コロナ禍にて固定費岩盤水準を前年比70億円削減

2021年度：経済復興の中、業務効率化にて固定費水準を維持

2022年度：既存分野⇒成長分野への固定費配分シフトと
成長に向けた戦略経費の投下

(市場開拓費用、先端開発、新商品開発など)

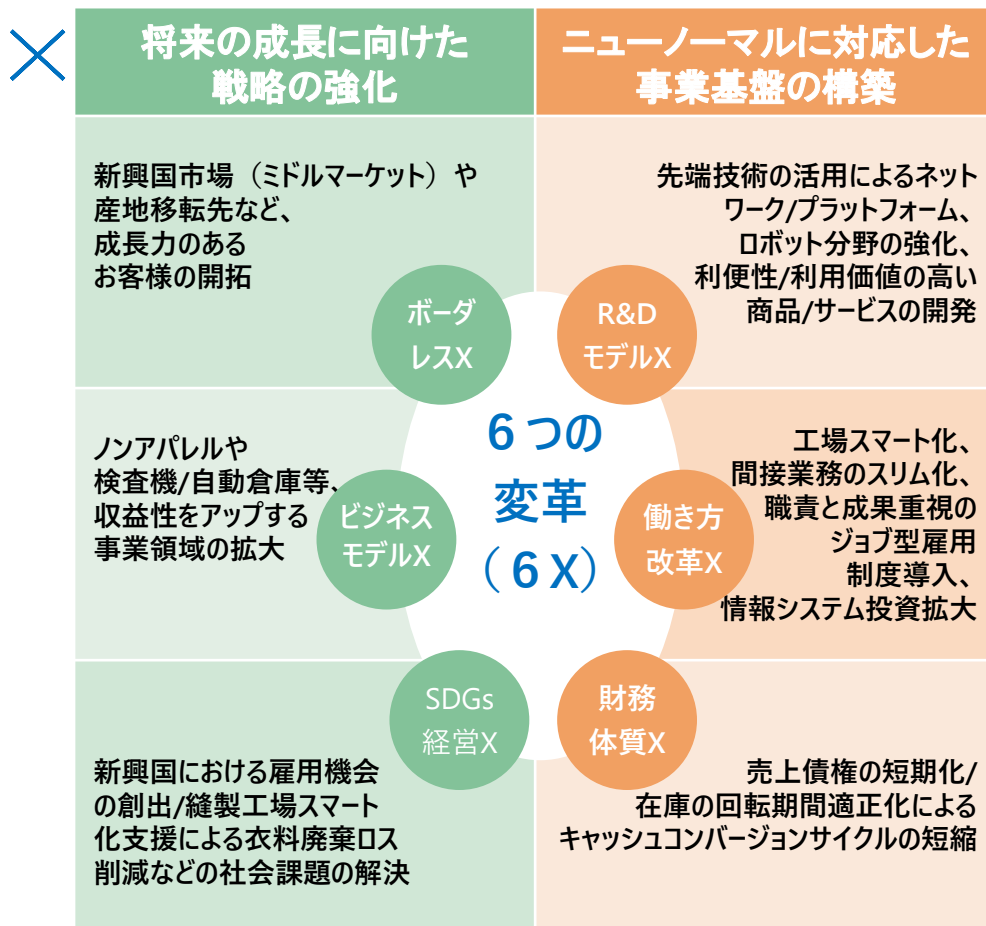
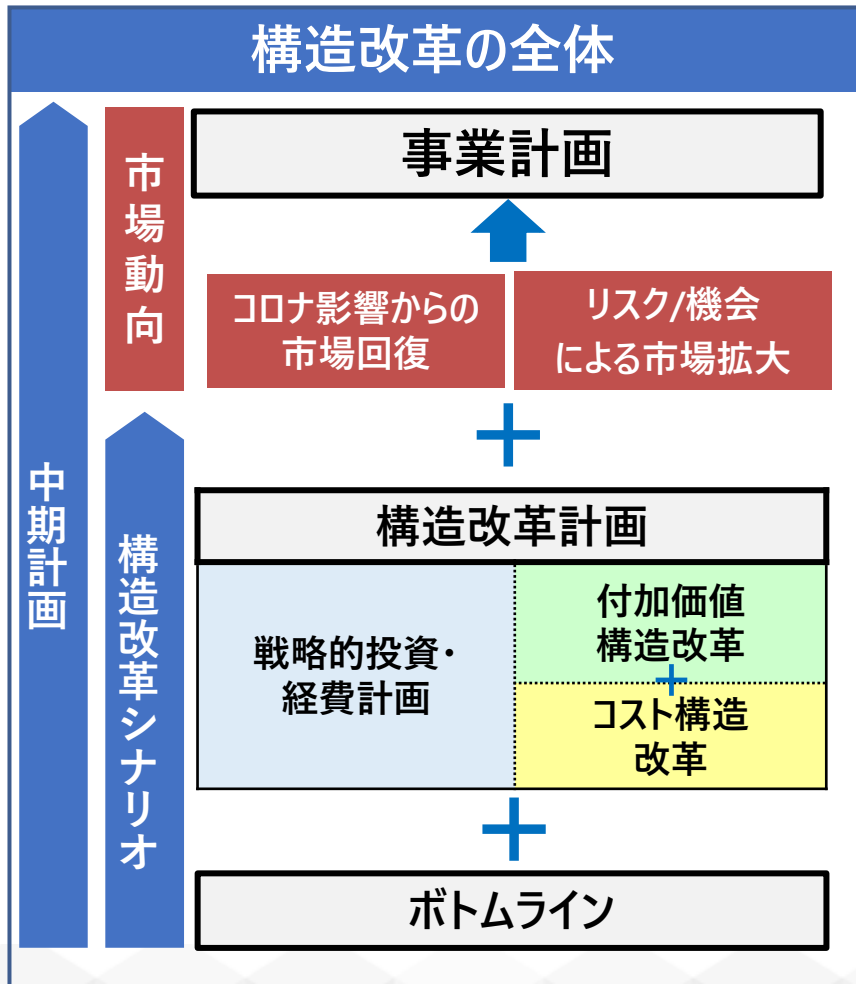
働き方
改革X





3. 今後の成長に向けた取り組み

- 2つの構造改革(付加価値・コスト)による収益の最大化
- 6つの変革(6X)による事業戦略と体制戦略の変革を強力に推し進め、成長軌道を加速しつつ、質的変換を図る。



3-2 2022年中期経営計画 –目標値–

- 3年後のあるべき姿を見据えた目標値を設定。※2025年は社内目標値

	2021年度	2022年度	2025年度
売上高	1,013億円	1,160億円	1,600億円
経常利益	35億円	50億円	100億円
自己資本比率	27%	38%	50%
Net D/Eレシオ	1.5	0.9	0.3
有利子負債 (現預金控除ベース)	524億円	363億円	300億円

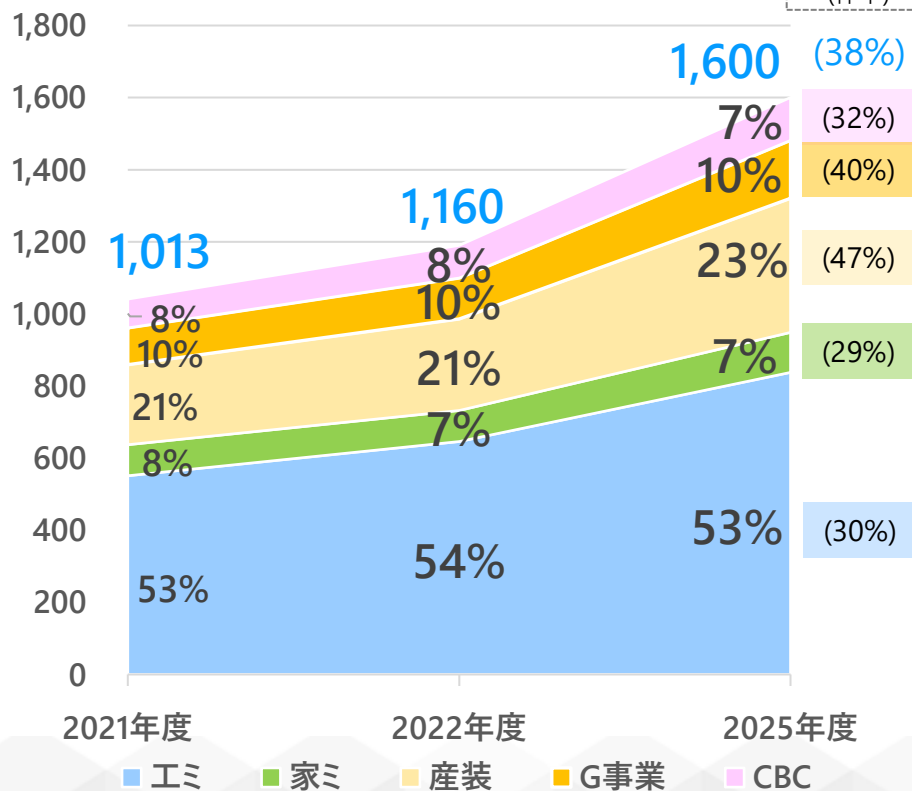
3-3 事業ポートフォリオ変革

- 売上高: 各事業とも重点分野の事業領域拡大を中心に、継続的な事業成長の実現を目指す
- 粗利益: 産業装置やカスタマービジネスなど高付加価値分野の拡大により、収益性の向上を図る

売上高ポートフォリオ

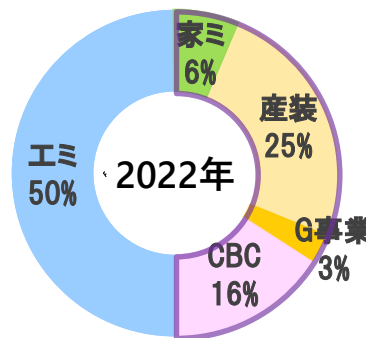
※為替レートは、2021年は実勢レート、2022年以降は1ドル=105円で算定

22⇒25年
(伸率)



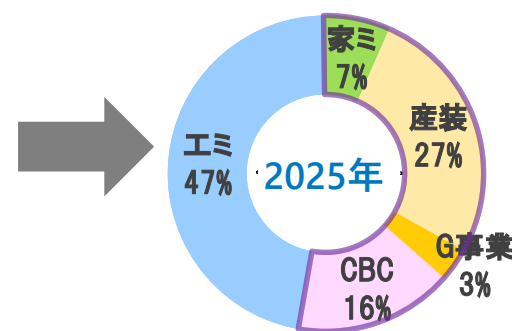
粗利益 構成比

工ミ以外
50%



※工ミ=工業用マシン

工ミ以外
53%



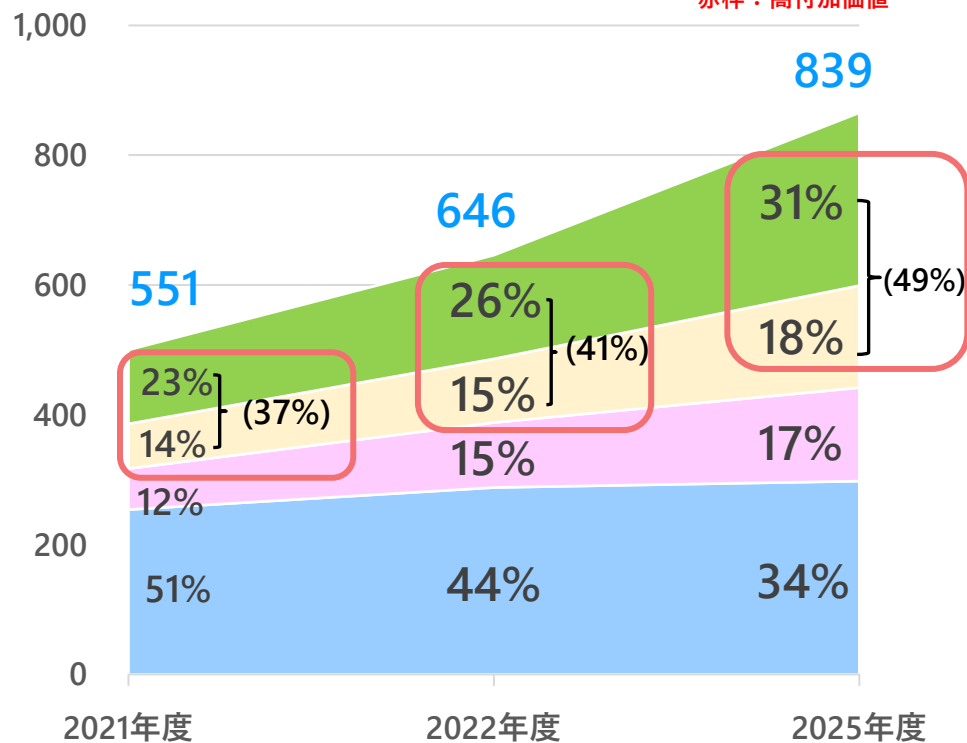
※2025年は社内目標値

3-4 事業ポートフォリオ変革 –縫製機器 & システム(工業用ミシン)

- 将来の顧客基盤構築に向けたミドルマーケットでのシェア拡大
- 高付加価値製品 / 提案営業の強化による稼げるビジネスモデルの構築

売上高ポートフォリオ

赤枠：高付加価値



■ アパレル ハイエンド ■ アパレル ミドル ■ ニット ■ ノンアパレル

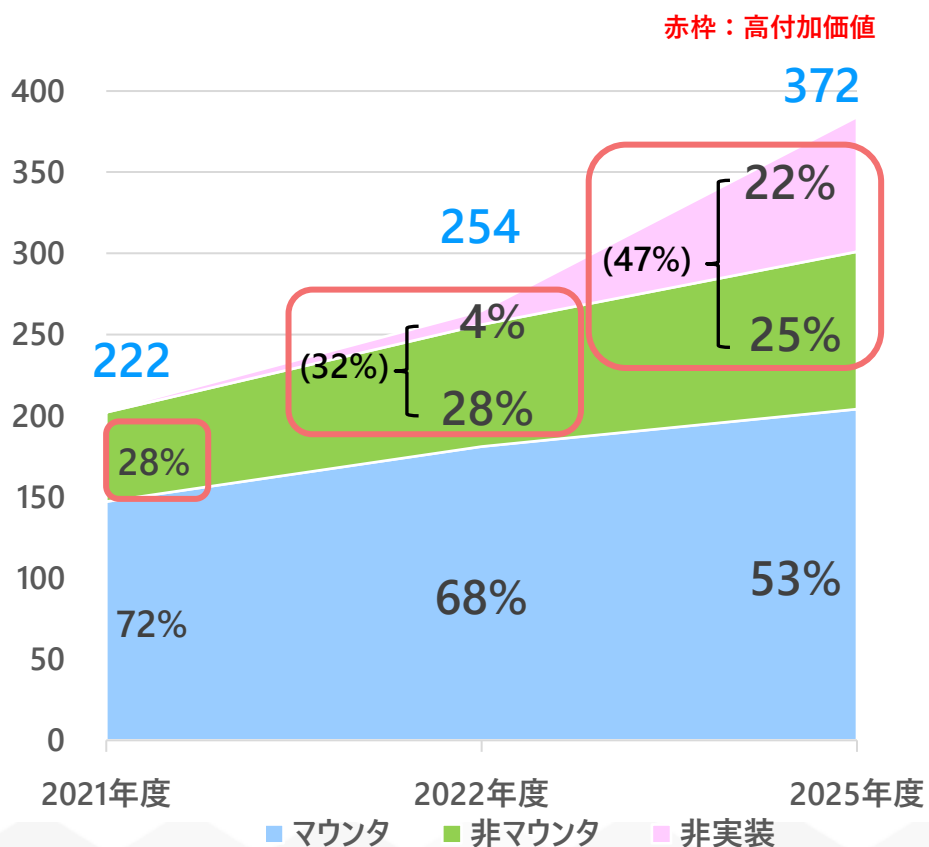
重点取り組み

アパレル ハイエンド	<ul style="list-style-type: none"> 顧客工場のスマートファクトリー化に向けたワンストップソリューションの展開 強みを生かした自動機の展開拡大
アパレル ミドル	<ul style="list-style-type: none"> 「JIN」ブランド(新興国ミドル向け機種)によるシェア拡大
ニット	<ul style="list-style-type: none"> ペガサスマシン製造株式会社との事業提携による中南米やアフリカ等をはじめとした新興国の開拓
ノンアパレル	<ul style="list-style-type: none"> 自動車シート/スポーツシューズ/家具顧客向けの販売強化 ※三菱電機、名菱テクニカとの共同で 2022年7月に「JUKIテクノソリューションズ」を設立

3-5 事業ポートフォリオ変革 - 産業機器 & システム(産業装置)

- 自動化装置や検査・計測にて非マウント比率を28%(2021年)⇒32%(2022年)へ
- グループ事業との協業による実装工場以外(非実装顧客)への事業領域の拡大を図り、2025年には22%を目指す

売上高ポートフォリオ



重点取り組み

マウント

- 【高速機】
・ウェアラブル機器や5G関連機器向け
高速機の市場投入

非マウント

- 【自動化装置】
・挿入機などを活用した自動化ソリューションの展開
- 【自動倉庫】
・ESSEGI AUTOMATION S.r.l.との協業強化による
販売網の拡大

非実装

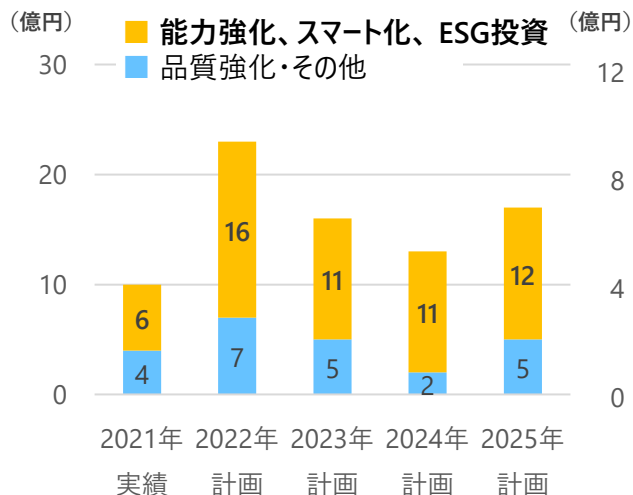
- グループ事業との協業による非実装顧客開拓の強化
- 【自動倉庫】
・半導体部品以外の異業種への展開拡大
- 【検査・計測】
・株式会社XTIAとの協業による外観検査領域での
事業領域拡大(車載・部品加工検査)
・半導体分野への領域拡大

■ 成長に向け、2022年～2025年にかけて約300億円規模の投資を計画

投資計画(2022-2025年度)

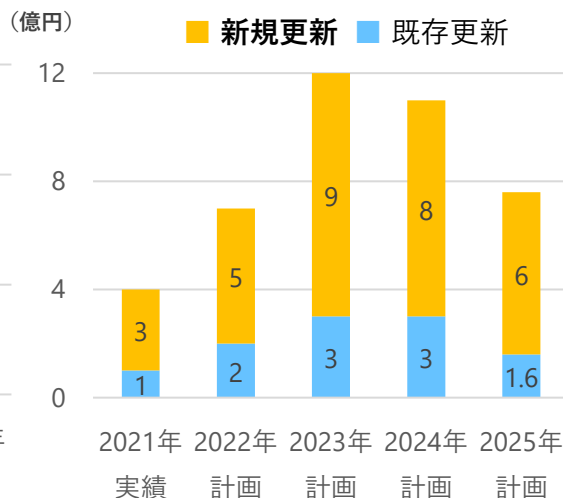
生産設備投資

69億円



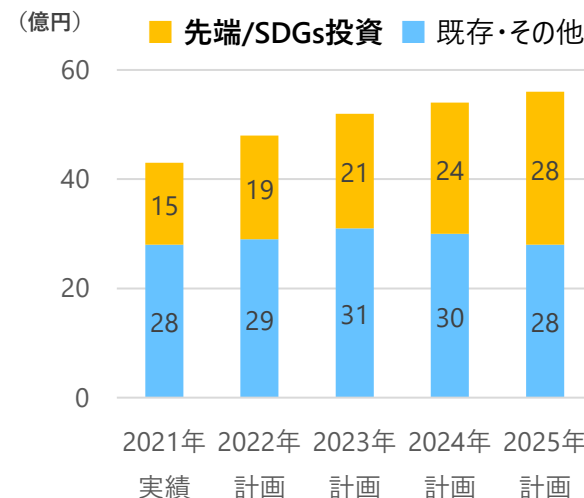
情報システム投資

38億円



開発投資

210億円



設備投資等による グループ事業売上拡大計画

2021年度比 売上高	2022年度 +12億円	2025年度 +46億円
----------------	-----------------	-----------------

システム投資による 売上高管理間接比率の低減

2021年度 5%	2022年度 4%	2025年度 3%
--------------	--------------	--------------

開発投資に占める先端投資比率

2021年度 31%	2022年度 40%	2025年度 50%
---------------	---------------	---------------

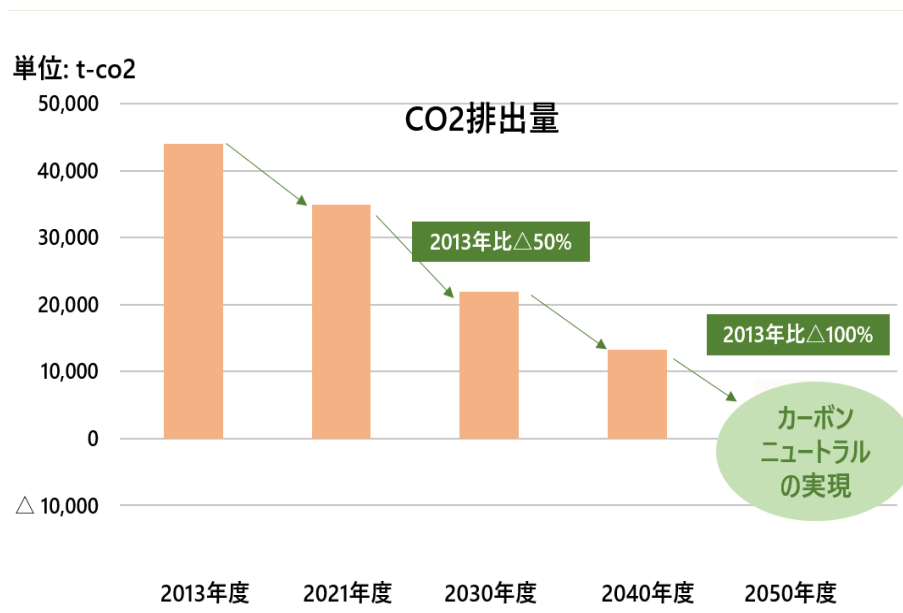
開発投資に占めるSDGs関連投資比率

2021年度 10%	2022年度 20%	2025年度 40%
---------------	---------------	---------------

- 2050年のカーボンニュートラルの実現を目指す。
- 気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)の提言に賛同。



【CO2排出量削減目標】※1



【CO2排出量削減に向けた主な取り組み】

生産設備		<ul style="list-style-type: none"> ・環境負荷のより少ない設備への切替 ・よりスマートな生産方式への切替
建物		<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー負荷の見える化 ・省エネルギー設備への切替推進
電力		<ul style="list-style-type: none"> ・再生可能エネルギーへの置き換え
吸収/除去		<ul style="list-style-type: none"> ・カーボンクレジット活用 (植林事業等への支援)




















※1 CO2排出量を2030年迄に2013年対比△50%削減、2050年迄に2013年対比△100%削減 (SCOPE1/2対象)



気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD)の提言に賛同

3-8 ESG経営の徹底 -マテリアリティ-

- リスクと機会を分析し、JUKI・ステークホルダー双方の視点にてマテリアリティを抽出。
- 本業を通じて社会課題に取り組むことで、経済価値、社会価値を創出する。

区分	マテリアリティ	主な取り組み	対応するSDGs
環境 (E)	環境負荷の低減	<ul style="list-style-type: none"> ・事業活動を通じた環境負荷低減活動 ・製品ライフサイクルにおける環境配慮 	    
社会 (S)	雇用機会の創出 様々な人材の 社会参加推進	<ul style="list-style-type: none"> ・新興国における雇用新規創出 ・職業教育支援を通じた労働者人口増加と労働者の待遇改善などの実現 	    
	労働安全衛生の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・安心/安全な縫製工場構築のための支援 	
	生産面からの 衣料廃棄ロス削減への実現 電子産業の生産性向上による 技術革新支援	<ul style="list-style-type: none"> ・縫製工場、実装工場のスマート化、技術革新支援 ・短期間で良質な製品をローコストで生産する工場の実現 ・適量生産を実現する仕組みの提供 ・実装工場における前後工程インフラの改良 	 
	働きやすい環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイバーシティ推進による組織の活性化 ・働き方改革、やりがいの促進、人材教育 	   
ガバナンス (G)	ガバナンスの強化	<ul style="list-style-type: none"> ・コーポレートガバナンス体制の充実 ・コンプライアンスの徹底およびリスクマネジメントの強化 	  

本資料における業績予想及び将来の予想等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実な要素を含んでおります。従いまして、実際の業績等が様々な要因により異なる可能性がありますことをご了承ください。

JUKI 株式会社

お問合せ先：経営企画部 担当：鴨居田

TEL：042-357-2294 FAX：042-357-2399

ホームページURL：<https://www.juki.co.jp/>